

まなびや

教室で息づく

開館10年記念企画展
[子どもの学びを支えた掛図]

世界の動物たち

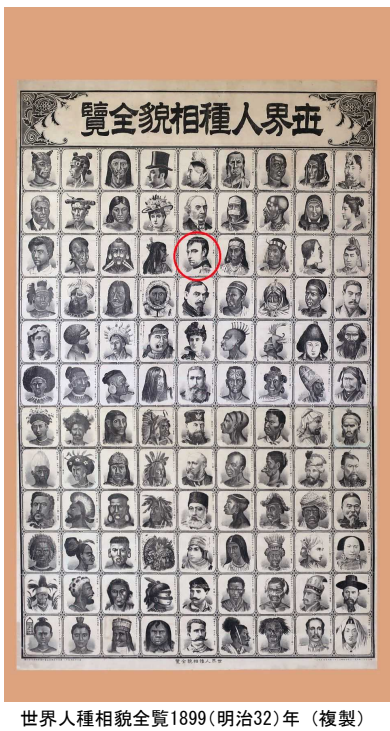
今でこそライオンやアフリカゾウ、ペンギンなど、世界中の本物の動物を直接見ることも、メディア上で写真動画であたりまえに楽しむことができます。しかし、明治と昭和初期の時代の子供たちのほとんどは外国の動物など、見ることができませんでした。

今回の企画展で紹介する「世界動物獣類第壹図・第貳図」を見て圧倒されるのは描かれた動物の数の多さです。19世紀後半に出版されたドイツの動物図鑑の挿絵を写したとされ、大きさは統一されていませんが、全体に隙間なくちりばめられた掛図を見ると、世界中の陸と海の「**獣類**」を子どもたちにすべて見せてあげたいという作り手の思いが伝わります。

下の第壹図は、上部中央に百獣の王ライオンがいます。しかし、中央付近のラクダの足下にカモノハシ、ウマの足下にアルマジロ、海獣類の一番上にイッカクなど珍しい動物たちも描かれています。

第貳図では、ゾウやキリンなど、今ではおなじみの動物が目立ちますが、実はゾウが上野動物園に来たのが明治22年でした。キリンは明治40年初登場で、この時霊獣の麒麟を和名として名付けたと言われています。

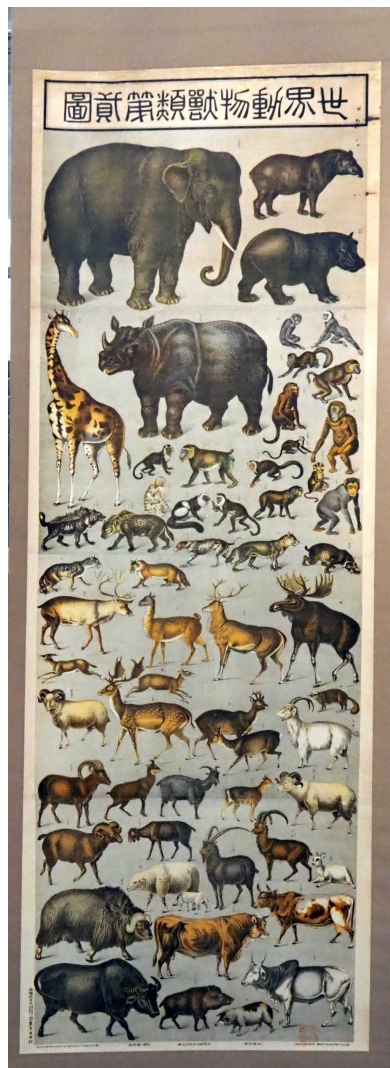
黒板に掲げられたカラーで精密な、見たことも聞いたこともない動物の姿を見つけた時の「これは何?」「これ、知っている!」当時の教室の子供たちの驚きの声、喜びの声が聞こえてきそうです。



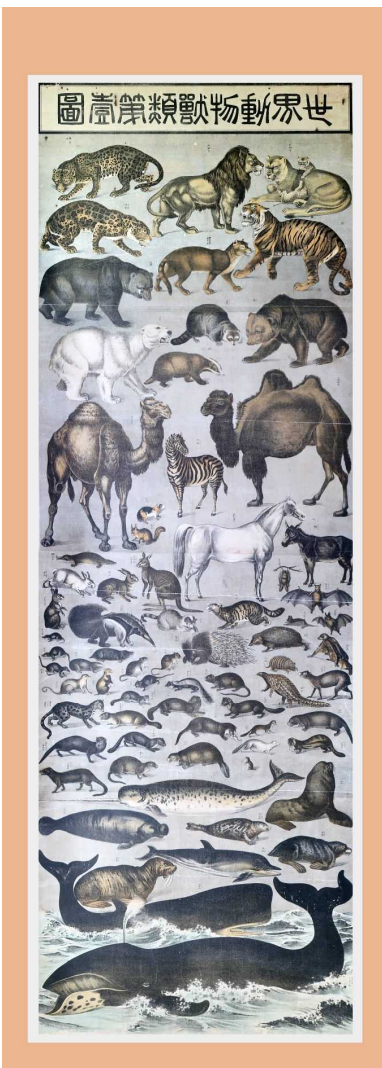
世界人種相貌全覽1899(明治32)年(複製)

「世界人種相貌全図」と「世界動物獣類第壹図」は共に宮城県登米市教育資料館の複製(当館寄託)です。

ですが、第貳図は勝山市立成器西小学校で発見された実物



世界動物獣類第貳圖 1899(明治32)年



世界動物獣類第壹圖 1899(明治32)年

人類もまた獣類?です

世界人種相貌全覽

動物だけではありません。上は世界の人々の「顔」を集めた「世界人種相貌全覽」という珍しい掛図です。

よく見ると、どう見ても特定の個人(ナポレオン?)の顔もあり、どこの国か民族が全くわからない顔もあります。当館の開館10年記念企画展でお確かめ下さい。